

研究代表者 所属・職：社会福祉学部・教授

氏 名：児玉 善郎

研究課題名：住民・大学・行政の協働による空き家を活用した地域福祉活動に関する実証的研究—高齢者支え合い、子育て支援、防災・減災等の活動を通して—

研究の目的

本研究は、美浜町において増加しつつある空き家を地域福祉の活動拠点として、住民同士のつながりづくりや支え合いの場として活用していく上での、活動内容および運営方法について実践的に検討することを目的とする。

プロジェクト目標の達成状況・成果内容

〔達成状況〕

- (1)奥田地区の空き家（旧田島家住宅）での3カ年の実践の成果と課題の検証
- (2)空き家を住民の居場所等として活用する先進事例の調査
 - ①寿々家再生プロジェクト（愛知県豊田市足助町）
 - ②尾道空き家再生プロジェクト（広島県尾道市）
 - ③NPO 法人絆 空き家活用の常設居場所（愛知県東浦町）
- (3)美浜町における空き家を活用した地域福祉の活動拠点形成の可能性と課題
 - ①美浜町空き家バンク制度の活用実績の把握／
 - ②美浜町内の古民家活用事例の把握／③空き家を活用しシェア居住を考えている日本福祉大学学生に対する聞き取り調査

〔成果内容〕

上記(1)～(3)で達成した内容をもとに、美浜町での空き家活用に向けて求められる点として、以下の4点を成果としてまとめた。

- ①空き家の持ち主と利用希望者のマッチング支援の必要性
- ②空き家活用のモデル的实施による空き家持ち主、地域住民への情報発信
- ③公益的組織、団体による空き家活用の支援
- ④美浜町の空き家活用において大学の果たす役割

優れた成果があがった点

美浜町内において、空き家の利活用を促進していく上では、町の実施する空き家バンクの登録情報だけでは難しいことが、空き家活用の先進事例調査より把握することができた。空き家の貸し手と借り手の間を調整し、マッチング支援を行う主体、組織を形成していくことが求められる。とくに、空き家の持ち主に対して、貸すことによる不安を軽減することや、貸す上での手続き等の負担を軽減するための支援や情報提供を行うことがマッチング支援を行う上で重要であることが把握できた。

この成果をもとに、美浜町においては、空き家活用のマッチング支援を担う組織を、住民、行政、大学が協働して形成していくことが求められる。

研究期間終了後の今後の展望

今年度の成果を踏まえて、美浜町内において空き家を地域のつながりづくりの場として実際に活用する上での方策や仕組みについての実践的な検討として、以下の3点に取り組みたいと考えている。

- ①美浜町布土地区の空き家に移住してきた子育て世帯を対象としたインタビュー調査を実施するとともに、移住者同士のネットワークづくりに繋げる。
- ②美浜町内の空き家活用の支援方策（民間版空き家バンク）の検討
- ③美浜町内の空き家を大学のサテライト拠点として借りて活用することを検討する。